

オレンジ新聞



令和4(2022)年3月
発行
発行元：茨木市

認知症の夜明け

～早期発見・早期治療、加えて生活習慣の改善による発症予防が大切～

医療法人恒昭会 藍野病院(名誉院長) 脳神経内科 杉野 正一

1. 根本的治療薬の開発

『夜明け』は新しい時代の始まりを意味します。

昨年は認知症克服に向けての第一歩となりうる治療薬の誕生が大きな話題となりました。2021年6月に認知症の半数以上を占めるアルツハイマー病の根本的治療薬『アデュカヌマブ』が米国FDA(食品医薬品局)において条件付きながら承認されたのです。アルツハイマー病は脳内でのアミロイドβ(ベータ)という蛋白の沈着から始まります。そして10～20年かけて蓄積し、その後半の過程で脳の神経細胞内にリン酸化タウ蛋白が蓄積され神経細胞が変性・消失しアルツハイマー病が発症することが判明しています。

『アデュカヌマブ』はアルツハイマー病発症のきっかけとなる脳内に沈着するアミロイドβ蛋白を取り除く抗アミロイドβ抗体を用いた免疫療法です。蓄積した脳アミロイドを映し出すPET(ペット)検査により、月1回の静脈注射を1年間投与することで脳内アミロイドβの59～71%を取り除けたことが証明されています。

ワクチンといえば新型コロナウイルスのように感染症の病原体が対象ですが、これを変性疾患の細胞に応用したワクチン療法の試み(1999年)が発端になっており、まさしく革命的な発想から発展した治療法といえます。

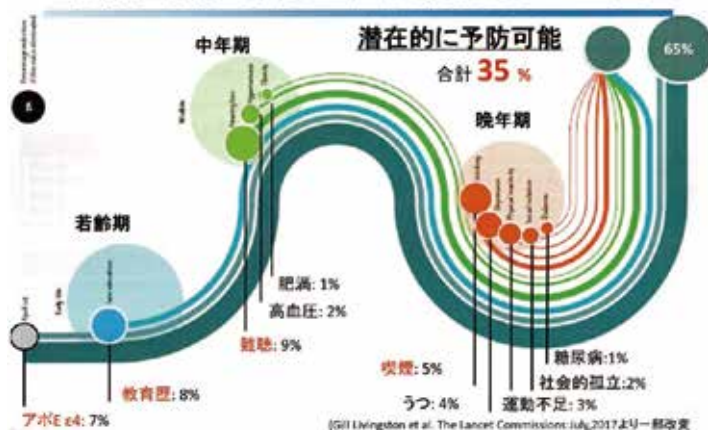
日本においても、12月22日に保険適応について審議されましたが、厚生労働省の専門部会は有効性をより明確にするように、と継続審議となりました。この薬剤本来の機序から考えると、まだ無症状の段階での投与で発症が予防できること、もしくは初期段階での投与で長期間の経過で進行を抑えるといった立証が必要と思われます。日常診療で使えるには今しばらく時間がかかりそうです。

しかしながら、このようなアミロイドβを取り除く治療法は他にもいくつもの有望な治療薬が最終段階にあります。さらに神経細胞の変性に直接関わるタウ蛋白を取り除く薬剤も開発されつつある現状です。脳の老化と密接に関連しており難攻不落と考えられていたアルツハイマー病の克服が視界に入ってきました。

2. 日常生活での発症予防

もう一つ、私たちにできる発症予防の手立てが明らかになっていきます。それは中期からの生活習慣の改善です。中期からの高血圧や糖尿病、肥満、難聴、さらには生活習慣としての運動不足や喫煙、社会的孤立などが認知症の発症リスクとなることが明らかとなり、それらの改善により潜在的にある程度予防可能であることが報告されています(図)。

予防可能な認知症危険因子の寄与



私たちが自身が食生活や運動習慣、喫煙などの生活習慣を見直すことで認知症予防に繋がるわけです。実際、英国の3地域で実施された大規模な生活習慣の改善キャンペーンにより、20年後の認知症有病率が30%減少したことが報告されています。

さらに、これらのちょっとした生活習慣の改善により、認知症だけでなく脳卒中や心臓疾患のリスクも下げることができま。

3. 早期診断の時代

最後に、もしご自身や身近な方で『認知症を疑ったら』、出来るだけ早い専門の医療機関への受診をお勧めいたします。『治療可能な認知症』と呼ばれる認知症以外の病気も少なくありません。たとえ認知症であっても、認知症疾患の種類も数多くその経過や対処法も異なります。さらに、近い将来に期待される根本的治療薬も超早期認知症が対象となります。

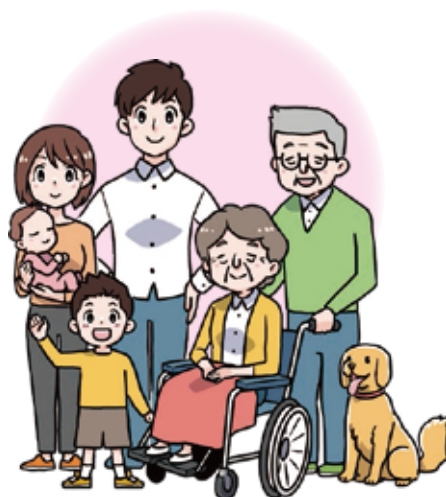
認知症の相談や診断の出来る診療所・病院をお探しであれば、まずかかりつけ医にご相談下さい。また、担当の地域包括支援センターや認知症地域支援推進員による認知症オンラインダイヤル(0120-556-806)、認知症初期集中支援チーム「チーム・オレンジ(ばらき)(072-622-0655)」などの相談窓口も設置されており、茨木市の発刊する『認知症サポートブック』にも掲載されています。

2025年には『認知症700万人時代』が到来します。生活習慣の改善と共に早期診断・早期治療の重要性も心にとめて頂ければ幸いです。

電話・メール相談ができます 認知症オレンジダイヤル

もの忘れや認知症が気になるので相談したい、対応方法について聞きたい、病院への受診や医師への相談の仕方について教えてほしい、サービスについて知りたいなど、ご本人やご家族などからの相談先として、認知症オレンジダイヤル(認知症電話相談専用ダイヤル)を設置しています。認知症に関する相談を認知症地域支援推進員が対応をしています。認知症地域支援推進員は、認知症の人が出来る限り住み慣れた地域で暮らすために医療機関・介護サービス事業所・地域の支援機関等をつなぐコーディネーターの役割を担っています。

通話・相談は無料です(月々金曜日の午前9時から午後5時まで。土日・祝日・



年末年始12月29日～1月3日を除く)。認知症は早期発見・早期治療・早期対応が重要だと言われています。プライバシーは保護されますのでお気軽にご連絡ください。

認知症
オレンジダイヤル
0120-556-806
認知症電話相談専用ダイヤル(監野病院内)
認知症地域支援推進員が対応します
・家族の抱えきれなくなった気がする。
・認知症について聞きたい。
・認知症専門の医療機関を教えてください。
・受診の仕方について教えてください。
・メール相談も受け付けています。
●月～金曜日 ●午前9時～午後5時
(土日・祝日・年末年始12月29日～1月3日を除く)
通話・相談無料です。お気軽にご連絡ください。
プライバシーは保護されますので、ご安心ください。

認知症オレンジダイヤル
0120-556-806

メールで相談ができます

QRコード®から
メール相談フォームに
ご入力ください。



認知症の人やご家族等が地域で憩える場 認知症カフェ(いばらきオレンジかふえ)

今年度、茨木市の委託を受けて運営している啓発型認知症カフェを新たに2か所開設しました。「なかよしクラブ葦原」と「なかよしクラブ西河原」です。どちらも多世代交流センター内で開催されています。認知症のご本人やご家族、地域の方や認知症サポーターのボランティアスタッフが日頃の思いを語り合っています。参加者からは、「今日は、母が楽しんでいたのが嬉しかった。」「介護者としての気持ちに聞いてもらえたのでよかった。」「家族同士が話せる場所が、もっと増えてほしい」などの感想がありました。ご家族同士で「その対応の仕方は間違っていないよ」「頑張りすぎず少し休みを入れてね」と声をかけ合う姿も見られました。

今年度は他にも、薬局や介護支援事業所が主催するカフェ、訪問看護ステーションと大学が共催するカフェも誕生し、現在は市内に24ヶ所の「いばらきオレンジかふえ」があります。詳細お問い合わせは、072-657-7717(慶徳会地域相談支援室)まで。



ご家族の学びと交流の場 家族教室

家族教室とは、認知症の人に対応されている家族や介護者の方が学びあい、教えあい、支えあいをしながら交流をする場です。

令和3年9月25日(土)にオンラインにて認知症家族教室を開催しました。介護について参加者の方から他参加者の方へ「本人が怒っている時は少し距離をとって見たら」「介護者にも休息が大事なので時間をとるようにしてね」などの助言や、「これからの母の対応に生かします」「生活に取り入れていきたいなどの意見がありました。今後ともご家族が知識を得たり相談ができたりする交流の場として家族教室は継続していきます。興味のある方は「茨木市認知症総合支援事業」のホームページか広報誌をご覧ください。



世界アルツハイマーデー及び世界アルツハイマー月間

庁舎1階の
受付に設置



1994年「国際アルツハイマー病協会」は、世界保健機関と共同で毎年9月21日を「世界アルツハイマーデー」と制定し、この機会を捉えて認知症に関する正しい理解の促進などさまざまな取り組みを行っています。本市でも毎年9月に集中的に啓発活動を行っています。

庁舎に啓発物の設置、掲示などを行い、中央図書館に特集コーナーを設置するなど広く周知啓発に取り組みしました。



庁舎南館2階の廊下壁面に掲示



中央図書館の特集コーナー

認知症のことを正しく理解しよう

令和3年9月21日(火)実施 啓発イベント

@イオンタウン茨木太田

『認知症を知ろう』

認知症関連の啓発物、いばらきオレンジかふえ(認知症カフェ)の写真、認知症に関する書籍などの展示や、認知症の人からのメッセージビデオや、オリジナルアニメ『やっぱり笑顔のサブちゃんがい』などの動画上映を行いました。参加者からは「いばらきオレンジかふえについて知ることができた」「認知症の対応の仕方がDVDで理解することができた」「両親に本を教えてあげようと思う」などの意見がありました。今後も認知症の人やご家族が安心して茨木市で暮らし続けられるよう、いろいろな取り組みを進めていきます。



認知症になっても安心してくらし続けられるために

認知症サポーター養成講座

令和3年9月23日(木・祝)に認知症サポーター養成講座を太田・西河原地域包括支援センターがオンラインで開催しました。実際に介護を行っている方や、遠方のご家族等の参加がありました。認知症地域支援推進員と太田・西河原地域包括支援センター職員が認知症に関する講義を行い、その後、2グループに分かれて講座に参加しての感想や認知症サポーターとしてこれからできること、やってみようと思うことなどについてディスカッションを行いました。いろいろな感想や意見が出て、大変盛り上がりしました。アンケートでは「祝日に開催していただいて参加しやすかった」「認知症の人に対する接し方がとてもわかりやすかった」「認知症



の症状について理解できた」「今後増える認知症の人、介護者へ多面的なサポートが出来る取り組みを地域全体で考えていけたらと思うので、定期的開催を提案したい」等の回答がありました。今回、認知症サポーター養成講座を初めてオンラインで開催しましたが、有効な手段の一つと実感しました。

通常は対面形式で開催しています。講座についてのお問い合わせは、認知症地域支援推進員(慶徳会 072-657-7717)までお願いします。

見守り・声かけ・行方不明高齢者搜索等の模擬訓練

みんなが認知症に関心を持ち、正しく理解をし、認知症があってもなくても、日頃からお互いに声をかけ、見守り支え合う、そんな地域づくりを目指して、QRコード® つきの茨木童子見守りシールを活用して、地域包括支援センターが地域住民等とタッグを組んで開催しています。今年は、茨木警察署地域課のご協力をいただき、110番通報のロールプレイを行った地域もありました。訓練参加者からは、「声をかけるタイミングやどのようになら声をかけたらいいのかわからなかった」「認知症の人と関わったことがないので、貴重な体験ができた」「認知症の人に会ったら、驚かせないように声を掛けたい」などの意見がありました。



訓練に興味のある方は、認知症地域支援推進員や地域包括支援センターにお声かけ下さい。



QRコード®を読み取り連絡先を表示させています

家に帰れなくなる
心配があるときは
茨木童子見守りシール
のご利用を



行方不明になる心配がある方に茨木童子見守りシールを配布しています。シールのQRコード®を読み取ると地域包括支援センターと市及び警察署の連絡先が表示され、シールの番号から素早い身元確認につながります。

詳しくは、本人がお住まいの小学校区を担当する地域包括支援センターにご相談ください。

問合せは福祉総合相談課 ☎072-655-2758